

21世紀に向けた コニカの技術開発

常務取締役 小板橋 洸夫



昨年は当社がブランド名をコニカに統一した年から10年目にあたり、コニカはたくさんの記念行事を行いました。

その行事の中でも特にコニカフェア'97開催に於きましては、当社の持つ裾野の広い事業分野の将来の姿を提案し、デジタル&ドライのコンセプトを基に、お客様に直接手で触れて体験していただく形で、デジタルで引き起こされるボーダーレス化のモデルを提案いたしました。

喧伝されている様に、情報産業分野はデジタル技術によって大きな変化が起こりつつあります。当然当社もその変革の波の真ん中に位置し、対応する商品の開発に日夜懸命な努力を重ねています。当社が関係している事業の共通点として、高画質、高精細な画像を扱うという事があり、デジタル技術がまさにこの分野で花開こうとしていると思います。デジタル技術の適用によって、アナログ技術では出来なかった、または非常にコストのかかった画像のハンドリングが簡単にお客様に提供出来るようになり、市場が大きく飛躍する事が期待出来ます。

デジタル技術は、入力された画像情報を必要に応じて、加工、編集、圧縮、電送、記録及び出力等を行う、最も経済的に有利な技術と言い換える事が出来ると思います。またデジタル技術によって、システム互換性が容易になり、いわゆるボーダーレス化が起こる事になります。

以上のようなデジタル化の変革は基本的には好機と捉える事が出来ると考えています。何故なら、前述した画像処理技術は、お客様が真に求める画像を熟知していなければ無用の長物になってしまうからです。アナログ画像とはいえ、高画質、高精細画像

をお客様に長年に亘って提供してきた知識が、強力な強みとなるからです。ボーダーレスの時代で、技術の共有化や相乗効果が起こりやすく、当社の裾野の広さが強みを発揮する時代が到来したと云えるでしょう。事実、我々は、強力な競合他社、既存のみならず新規の競合に互して、複写機分野でデジタル化を達成し、医用や印刷でもその変革の渦中にあり、コンシューマー分野も着々と市場に提案をしてきています。

更に当社の強みとして、最も期待している分野は光学事業です。デジタル技術は膨大な情報量を取り扱わねばならなくなり、その為には光の利用と制御が不可欠です。幸いにレンズから派生した光学事業分野で、当社は高い技術力を背景に確固たる地位を築きつつあります。光通信や光メモリーのみならず、デジタルスチールカメラや、レーザー書き込みのキー技術も、レンズ設計が鍵を握っているといえるでしょう。

21世紀に向けて今後当社が注力していく分野は、デジタル化された高画質、高精細画像の入力、すなわちデジタルスチールカメラやスキャナー、及び出力、特にハードコピーシステム全般を考えています。その一部はコニカフェアで展示されていましたが、特に、お客様に感動を与える材料の提供にあります。当社は、全てのプリンティング技術が、特にピクトリアルな分野では、お手本にしている銀塩カラーペーパーを提供している数少ない会社の一つであり、このカラーペーパーのデジタル化は当然として、その他のピクトリアルなハードコピー材料を提供するトップメーカーを目指したいと思います。

各界の皆様方のご期待に添うよう努力する事をお約束すると共に、従来にも増してご意見、ご忠告を頂けますことをお願いいたします。